

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 新得ふれあい館	評価実施年月日	平成20年8月28日
評価実施構成員氏名	伊藤 聡 越後ゆかり 会田恵美 杉谷法子 小田千尋 高橋トヨ子 丸尾知枝 鶉橋貴代		
記録者氏名	伊藤 聡	記録年月日	平成20年9月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>理念をホームの入口に掲示し、全ての方々に見て頂いている。その上で恥ずかしくないケアを心がけている。</p>	○	<p>ホームに来ない方にも理解される様、ふれあい便り等で広めたい。</p>
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>入居者の尊厳を大切にかかわっている。ご本人の決定を大切に、出しゃばることなく取り組んでいる。</p>	○	
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>取り組みは不十分。理解が得られるよう考えたい。</p>	○	<p>ふれあい便りを活用したい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等で挨拶を交わす他、どこの誰かということもわかってきて安心感がある。</p>	○	<p>入居者さんと近所の方が会話を交わして、「実は知人だった」「付き合いがあった」ということがわかり驚くことがあった。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会の一員として地域に溶け込むよう頑張っている。地域の方々に暖かく受け入れて頂き、地域行事への参加で交流を深めている。</p>	○	<p>役員会、お花見、サマーフェスティバル、資源ごみの提供等</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内会に参加し、かかわっていくことで何が出来るか検討中。</p>	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回指摘のあった点を検討し、可能な改善を行っている。</p>	○	
<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>取り組みの報告や、ホームのアピールの場として活かしている。</p>	○	<p>発表の場で終わることなく、委員の皆さんに関心を持っていただけるような会議にしていきたい。</p>
<p>○市町村との連携</p> <p>9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>町のイベントや教室に参加をさせていただいている。担当者の方は入居者さんをよく知って居られるので、声を掛けて頂いている。</p>	○	
<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>活用されている方のお話を聞かせて頂いている。必要な人が活用できるよう支援したい。</p>	○	
<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>スタッフ全員、虐待に対する意識は強い。法人で虐待防止委員会を設け、知識の向上に努めている。</p>	○	<p>研修時、ホーム内で虐待がないか無記名アンケートの実施</p>
4. 理念を実践するための体制			
<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書は丁寧に読み上げ、説明を行っている。</p>	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の会話の中での話を大切にしている。会議で報告しあい、プランや業務に反映させている。	○	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月ホームからお便りを発送している。近況報告をはじめ、お小遣いの明細等を報告している。	○	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を1つの機会にしている。面会時に家族さんの話を聞いて、会議で報告し運営に反映させている。	○	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ケアカンファを活用し、熱心なスタッフは提案を行っている。管理者はその場で可能なことはすぐに実施し、検討が必要なことは運営者との会議で報告し相談を行っている。	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者さんの状況によっては、勤務時間を柔軟に変更することが出来る。	○	通常は2交代であるが必要があるときは、遅番勤務をつけることもある。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	事業所だけの努力に限界を感じる。出来る限りの努力は行っている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>法人内外の研修は、参加するスタッフの勤務調整を行い、シフトに無理がないように考慮している。スタッフも意欲的に参加している。</p>	○	研修の内容や成果を、ケアカンファの席で報告してもらっている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>十勝グループホーム協議会に参加し、地域のホームの方々と交流している。芽室、清水、新得で1つのブロックとして交流や話し合いの場があった。</p>	○	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>法人としての親睦会とホームとして食事会を実施。業務での苦勞を皆で共有する場になっている。運営者は毎月1回地域責任者との会議を設け現場の意見を聞いている。</p>	○	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>意欲のある人には、通常の業務の他に責任のある仕事に取り組んで頂いている。</p>	○	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>本人との面談を大切にしている。話だけでなく、心配な方には下見にも来ていただき不安の解消に努めている。</p>	○	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>訪問時は勿論、遠方の方には電話での相談をうけている。</p>	○	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ほとんどのケースは、当ホームを良く知る地域の相談員さんに相談されてから来られる。そういったご本人や、家族さんのお話を更に聞いたうえで対応している。	○	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居して1年になるも、ホームに馴染めずに家族さんとの生活を希望されている方がいる。家族さんを交え相談をする機会を設けている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	日常の中にその方だけが出来る活躍の場がある。(調理、食後の洗い物、朝のV T時の記録、段ボール片付け、メモ紙作り、洗濯物たたみ等)	○	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプランの中に家族さんの協力を盛り込み、お互いに支えあう関係作りを目指している。	○	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホームで生活する中で、ご本人の思いや抱えている悩みに触れている。その様子を家族さんにお伝えすることで、面会や外泊につながり気持の安定に結びついている。	○	ご本人の思いと家族さんの思いに開きがあるケースがあるので、それを埋めるお手伝いをしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人との関係が維持される様、連絡先の確認を行い手紙や電話、面会や外出のお手伝いを行っている。	○	会いに行くお手伝いも行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	関係が悪くならない様に見守ったり、誤解を解くサポートを行っている。	○	被害妄想の強い方がおられるので、誤解を与えない様に気を配っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去後も相談をうける事あり。外でお会いしても、気軽にお話ができる関係が続いている。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご自分でしっかり意思表示をされる方が多い。ただ、尊重しすぎると何もしないで寝てばかりになる方もいるので、そこは働きかけが必要であると考えている。	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前は勿論、入居された後もご本人や家族さんの話を聞いて、日々過去の暮らしぶりの把握に努めている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の様子はケース記録に残し、スタッフ全員が共有している。	○	現状を把握した上で、必要な声掛け、見守り、介助を個人のレベルに合わせて支援している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員のアドバイスを受け、ご本人に必要なプランを作成している。よく来て下さる家族さんからは意見や要望もあり、それらが反映出来るようチームで話し合っている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスで皆さんの様子について話し合っている。必要に応じて見直しを行っている。	○	
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録をとっている。記録が簡単で、見直す際に一目でわかるようにとスタッフの意見を盛り込んだ様式を採用している。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	家族さんが近くに居られない、事情があってすぐに来られないこともあるので必要に応じて、柔軟に対応している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	徘徊SOSネットワークに加入し、地域との協働に努めている。警察からは高齢者の交通事故があったときに、情報提供して頂けるようになっており事故を防ぐ参考にする。	○	
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	地域の有識者さんとの関わりの中で、いろいろなサービスを紹介して頂いている。	○	保健センター内にあるジムに週2回通っており、インストラクターさんが付きっきりのメニューを組んで頂いている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じて相談をしている。また、2か月に1度は運営推進会議で担当者さんと相談が出来る機会がある。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	馴染みの先生なので安心して医療を受けることができる。	○	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	相談できる専門医がおり、入居者さんへの支援は勿論、職員の苦勞もくみ取って下さる。	○	医師との相談が出来ないときは、ケースワーカーさんや保健師さんからも意見を頂いている。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	事業所に看護職員は確保していない。ただ、かかりつけの病院が近くにあることや、相談が出来る保健師さんがいることで安心感がある。	○	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	本人の意向や、環境の変化を考慮し入院になることは少ない。	○	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	今後、入居時に終末期のお話をさせて頂く様に決めている。	○	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	9人の入居者さんをどこまで支援出来るかを会議で話し合うも、スタッフ全員が不安をもっている。かかりつけ医や協力者のアドバイスを受けて備えていきたい。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族さんと話し合い、馴染みの物を持ってきて頂くことでダメージを防いでいる。	○	家族さんとは連絡を取り合うのは勿論、移り住む場所には一緒に見学に行き、検討を行っている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	スタッフとのやり取りで無視をしたり、厳しい言葉を掛けてくる方も居られるがきちんと対応し介助に影響が出ない様、気をつけている。	○	
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	普段の関わりの中で、思いが出やすい様におしゃべりを欠かさない。	○	
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	訴えに対し、実現が可能か話し合っている。	○	希望に応じて、週2回のジム通いにお付き合いしている。また自宅に帰りたい方には家族さんの協力を頂き実現している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近場ではなく、馴染みの地域の理美容室に出かけており、お店の方も快く迎えて下さる。	○	出張して頂ける美容師さんもいる。必要に応じ手配し、お願いしている。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者さんの好みについては把握をしている。自力摂取が難しくなっている方については滑り止めのマットを敷く事や、容器の高さや形を変える等の配慮している。	○	苦手な食べ物があるときは、代わりのおかずを提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒、喫煙をされる方は現在のところ居られない。	○	喫煙場所については決めているので、希望の方が入居や来館されても大丈夫かと思えます。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、必要な介助をしている。	○	失敗を減らすために、トイレ誘導を行っている。周囲に排泄の失敗を察知されない様配慮している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴前に確認をとり、気分がのらないときはできる限り時間をずらしたり	○	最近、数人で温泉に行ってきました。今後時間を見つけて行くことを考えています。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入眠時間の遅い方、眠剤を使用している方がいるが、全て把握しケアしている。	○	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事づくり、花壇の手入れ、ご本人の興味や生活歴を踏まえての役割をお願いしており、いきいきした姿をみることができる。	○	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	財布自体は預かっている。希望があれば買い物や通院時にご自分で好きなものを選択し購入や支払いをして頂いている。	○	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ホームの行事で外出することは勿論、ドライブに出かけている。希望される方は買物の支援も行っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別の対応はできる限り行っている。家族さんでも対応して下さる方がおられるので大変心強く思います。	○	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	予め家族さんに協力をお願いし、スムーズなやり取りが出来るよう支援している。	○	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	気軽に来ていただいている。	○	
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。研修等に参加し、更なる理解に努めている。	○	法人として委員会を設置しており、委員会での結果はケアカンファ等で報告。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけず、出て行ってしまおう方についてはスタッフが同行する。対象の方の服装を毎日チェックしている。	○	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーやプライドに気を配り、さりげない見守りを行っている。	○	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者さんの認知度に応じてその都度対応している。	○	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告書を活用し、危険と思われるものについては記録をしている。同じことを繰り返さないように原因と対応策を検討している。	○	具体的な対応策を検討し早期に対応している。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習に参加させて頂いている。	○	新人職員や中途採用職員についてはこれから参加をお願いします。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災や地震に備えて避難訓練を実施している。	○	地域の方への働きかけをもっとやっていきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時やお便り等で連絡し、必要な方とは時間をとって話し合いをしている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のV T測定や様子を見て体調を把握している。変化がみられたときは何時であっても、早急な対応に努めている。	○	
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤管理簿に個別にファイルいつでも確認が出来る。疑問や心配があれば確認を行っている。	○	
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	家族さんと相談し、ヤクルトを飲んでいる方がいます。飲んだ飲んでないと混乱が無いように管理を行っている。散歩や外仕事で体を動かして頂いている。下剤の量が減っている方がいます。	○	なるべく薬に頼らなくても済むようにお手伝いしていきたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きや義歯の洗浄等の支援	○	朝、夕の歯磨き声掛けと、必要な方には洗浄の介助を行っている。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスが取れるよう考慮し、摂取量の確認も行い個別に記録している。	○	水分摂取の少ない方は、1日の摂取量チェックを行い必要に応じ勧めている。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種をうけて頂けるようすすめている。感染予防マニュアルがある。	○	ペーパータオルやカンファホを活用し、感染症の予防に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	カンファ水を使用して調理器具の消毒を行い、食材については早期使用と冷蔵庫の清掃をしている。	○	更に有効なものがあれば、取り入れていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花壇を設け親しみやすい雰囲気づくりに努めている。	○	ベンチを設ける等、くつろげるように配慮
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設はくならない様、一般家庭と同じような設備の中で過ごして頂いている。	○	北側の窓からは新得らしい景色を見ることが出来、季節も感じられる。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間は何カ所かにあり、気の合う人と過ごせる。	○	その人の場所が自然とある。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのものを持ってきて頂き、その人らしい居室になっている。	○	自身が趣味で作った飾り物等を、居室や共用スペースに置かせて頂いている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気はこちらで対応することがほとんど。冬期は暖房を高くする方が多いので、温度調節や湿度に気を配っている。	○	皆さん暑さに鈍感になっているので、居室の温度や衣類に気を配っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>館内は入手すりを設けている。入居者さんの状態をいつも見ているスタッフより提案があり、手すりを増設したことがある。</p>	○	<p>食卓の席は歩行状態も考慮して配置</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室前には写真、食卓には名前をいれて混乱を防いでいる。入居者さんによっては、タンス等に内容物を明記している。</p>	○	<p>認知症の進行を見極め、必要な環境づくりをしていきたい。</p>
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>外回りは花壇にしているので居室の窓から眺めたり、手入れや収穫を楽しんで頂いている。</p>	○	<p>地域の方よりアドバイスを頂く機会があるので参考にし、よりよい空間活用をしていきたい。</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)